

# 本部だより

●第 34号



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>



携帯サイト

●環礁・本部だより第34号 ●発行日：平成28年8月1日 ●発行人：井上賀雄  
●マーシャル方面遺族会本部：〒180-0013 東京都武蔵野市西久保2-21-11  
●電話 & FAX：0422-56-1847 ●振替番号 00160-3-567561



ウオッセ島に残る砲・海軍四十口径八九式十二糧七高角砲

名誉会長に

朝香誠彦様ともじこのご就任

会長 井上賀雄

当会ともじこの名誉会長に朝香誠彦様ともじこがご就任されました。同時に相談役の大給湛子様おきつこ（誠彦様の叔母）より、ご高齢（96歳）のため役を辞したいとお申し出があり、相談役を退任されました。

昭和38年、当遺族会創設時、大給様のご尊父・朝香鳩彦様やぶひこが初代名誉会長としてご尽力され、また御兄・孚彦様たかひこも初代相談役にと、当会の運営に大変寄与されました。昭和63年にご退任された御兄・孚彦様（誠彦様のご尊父）の後を、大給様が引き継がれ、平成元年より28年の長きに亘り、相談役をお受けいただきました。心より深く感謝申し上げます。

3月14日、孚彦様のご子息である朝香誠彦様に、名誉会長ご就任のお願いを申し上げたところ、快くお受けいただきました。

今後とも、当会へのご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます

\*クエゼリン島で玉碎された菅羽正彦様は誠彦様の叔父、初代名誉会長の朝香鳩彦様は誠彦様の祖父です。

# 平成28年度 慰霊祭報告

監事 内海淑子

日時・4月3日(日) 午前10時

慰霊祭の朝、靖国神社の桜が咲いているだろうかと心配でした。一週間前の3月29日に皇居の桜を観に行きました時はポツポツと一輪二輪でした。もしかしてと靖国神社に向かったところ同様で、心配でしたが4月3日当日は、満開の桜で安心いたしました。

今年は朝香誠彦様と奥様の貴子様がお参拝下さること、心待ちにしておりました。相談役の大給湛子様も久しくおいでになりませんでしたので、私たち遺族も淋しく感じておりました。

今回の朝香様ご夫妻のご参加は大変嬉しく、参集殿貴賓室にて、気さくにお話し下さいました。暫く歓談の後、楠の間に、大給湛子様のご御近況等のご挨拶を頂きました。

10時に靖国神社の神職の先導で拝殿に向かい、お祓いを受けた後、ご本殿へ進みました。



神前への供物の奉奠、神職による祝詞奏上、朝香誠彦様の祭文奏上がありました。次に朝香様並びに井上会長、遺族代表五名による玉串奉奠と共に全員で参拝し、慰霊祭は無事終了致しました。

玉串奉奠者(敬称略)

- 東京都 朝香誠彦 東京都 井上賀雄
- 宮城県 佐藤 勉 石川県 小林ヨシ子
- 愛知県 浜田芳枝 福岡県 平田郁子
- 香川県 石川正興

楠の間に戻り、出席者全員で写真撮影を致しました。

(\*集合写真は最後のページに)

引続き楠の間にて、岡村勝利幹事の司会で、黒川誠前会長への感謝状贈呈式が行われました。16年に亘り、会長として当会を牽引された黒川誠前会長は、残念ながら当日ご欠席でしたので、代理としてご息女・福永弥生様へ感謝状をお渡しいたしました。

### 感謝状

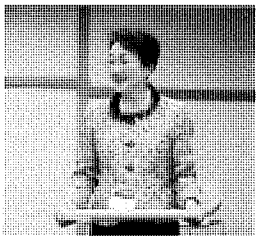
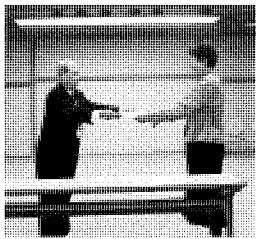
黒川 誠 殿

貴方は平成十一年第五代会長に就任されて以来実に十六年の永きに亘り英霊の慰霊顕彰につくされました

在任中には本会の永代神楽祭の齋行ホームページの開設靖国神社遊就館に於いて写真展「マーシャル群島遙かなり」を主催される等その功績はまことに顕著であります靖国の桜満開の佳き日にあたり永年の功労を称え全会員を代表して心より感謝の意を表します

平成二十八年四月吉日

マーシャル方面遺族会 会長 井上賀雄



■ 慰霊祭参加者 (敬称略)

青森県 須藤明子 岩手県 佐藤享三 宮城県 佐藤 勉 安藤としえ 山形県 長岡正昭 新潟県 山田昭雄 山田幹子 石川県 小林ヨシ子 栃木県 菊地彦巨 岡村勝利 埼玉県 佐藤知子 小田原利子 小田原実 小田原豊 小田原真由美 小田原由樹 小田原靖 小野トキ子 小室洋子 小室貞男 大井和子 西勝章夫 鈴木裕子 小松順子 眞鍋信一 眞鍋公代 高林芳夫 高林正子 千葉県 沖中晃子 沖中光宏 東 邦義 東テル子 東京都 朝香誠彦 朝香貴子 井上賀雄 福永弥生 鈴木千春 山口良二 内海淑子 山田二美 問々田征史 問々田邦子 星野綾子 中村順子 米林義昭 米林美智子 居戸和由貴 神奈川県 石澤洋子 佐藤隆一 中沢秀夫 糎谷友孝 鈴木友季子 安威和子 服部政久 清水雅尚 清水俊介 愛知県 浜田芳枝 浜田道徳 目黒知子 目黒一誠 岐阜県 吉田正明 堀尾洋平 堀尾晃平 香川県 石川正興 石川妙子 金森信子 松原敦子 高知県 山本 忠 愛媛県 白方勝彦 福

岡山 平田郁子 石松順子 ゲスト 黒崎岳大 森山史子 大川史織 松宮春彦

■ 定期総会 高林芳夫

同日：午前11時  
場所：靖国神社参集殿・楠の間

同日、同会場にて、山口良二副会長が総会の議長に選出されました。議長の開会の宣言で定期総会が始まりました。

式次第

- 一 開会の辞
  - 二 会長挨拶
  - 三 会務報告
  - 四 会計報告
  - 五 会計監査報告
  - 六 国内慰霊行事の発表
  - 七 現地慰霊の報告
  - 八 会則改定
  - 九 その他
- 二：会長挨拶  
挨拶の中で、朝香誠彦様が名誉会長

にご就任いただく事が決定。総会で賛成多数の承認をいただきました。



三：会務報告

27年度の会務報告が高林芳夫副会長より報告されました。

四：会計報告

米林義昭副会長より会計報告がありました。

五：監査報告

内海淑子監事から総勘定元帳をはじめ収支資料を監査照合した結果、相違ない事が報告されました。

六：国内慰霊行事

井上会長より慰霊行事の報告がありました。今年度は次の通り。

\* 5月30日

厚生労働省主催・千鳥ヶ淵戦没者墓苑 拜礼式。

\* 7月15日

午後二時より本会の永代神楽祭。

参加希望者は本部までご連絡ください。

\* 8月15日

政府主催全国戦没者追悼式：日本武道館。

東京都戦没者追悼式：文京シビック

ホール。

七：現地慰霊

4月28日の役員会で実施するか決定しますと報告（詳細は本会報にも記載）

八：会則改正

現行の会則 第二条「事務所」この会の事務所は、東京都に置きます。第二条に関し、井上会長より、改正の提案があり、賛成多数で改正される事となりました。

改正案は次の通り

第二条「事務所」 この会の事務所は会長が会の運営に最も適した場所と認めた所に置く事とします。この改正は平成28年4月3日から施行致します。

総会は12時30分に終了となりました。

\*終了後、希望者による直会旅行が実施されました。

22年ぶりの直会バス旅行  
修善寺温泉へ19名の参加

神奈川県 石澤洋子

英霊の涙雨かと思われる天候でしたが、平成5年以来22年ぶりに直会旅行が計画されました。参加者19名で靖国神社を後にして、一路、伊豆修善寺温泉ホテル桂川へと向かいました。バスの中では美味しい牛すき弁当を頂きながら話に花がさきました。世界遺産登録の「葎山反射炉」を地元のガイドさんの説明で見学しました。



まもなく修善寺温泉に到着。温泉街を散策し、温泉に浸かってくつろぎました。夕刻、宴会場が集まり、香川県から参加された石川さんが乾杯の音頭をとられました。しばらくは和やかに、海の幸、山の幸に舌鼓をうち、自己紹介をいたしました。

宴たけなわとなってカラオケが始まり、米林さんのお座敷小唄の替え歌「ボケない小唄・ボケます小唄」など、みなさん素晴らしい喉を披露してくださいました。

また内海さんのお心遣いの「プリント歌集」には英霊が口ずさんだであろう曲がたくさん選ばれており、みんなで大合唱してお開きとなりました。

二次会も盛り上がり、夜のふけるのも忘れていました。

翌日は日本最長、三島の大吊橋（平成15年12月完成）を渡り、富士山を望むつもりでしたが、残念ながら当日は雨でガッスって何も見えませんでした。

箱根神社では雨も上がり、参拝が出来ました。



小田原鈴廣にて昼食と買い物をして、また来年も元気で再会することを約束して数名の方とはお別れしました。

東京駅には3時頃到着。みなさんと別れを惜しんでそれぞれ帰路につきました。

企画された小室洋子さん、往復バスでの名ガイド役・岡村勝利さんには大変お世話になりました。

寄付者御芳名 敬称略

- 北海道 岩川あい 青森県 須藤明子 岩手県 小山浩二 佐藤亨三 秋田県 打矢知子 宮城県 安藤としえ 佐藤 勉 福島県 古市キノ 根本さとみ 富田キミ
- 茨城県 神永栄子 鈴木やよい 栃木県 猪瀬康夫 菊地彦巨 吉川容子 岡村勝利
- 千葉県 腰川妙子 泉水堯恵 廣原 実 宮崎 實 東 邦義 埼玉県 小田原利子
- 小野博孝 小室洋子 鈴木裕子 諸橋恒一 吉原利美 西勝章夫 高林芳夫 東京都 石川 勲 中村順子 番場信子 間々田征史 鈴木千春 西田寿子 山口良二 大給
- 湛子 内海淑子 井上賀雄 米林義昭 黒川 誠 神奈川県 石澤洋子 上田文字子

- 榎本益明 佐藤隆一 鈴木友季子 山梨県 黒川正文 長野県 中村純久 藤原和子 新潟県 石丸 進 山田昭雄 本保美恵子 静岡県 大知幸夫 愛知県 浜田芳枝 岐阜県 吉田正明 堀尾洋平 富山県 廣島 富子 石川県 木村久子 河崎仁衛 広島 県浦手清司 奥井禮子 瀬戸隆子 鳥取県 井上照美 香川県 富田佳代子 愛媛県 長岡俊夫 馬場 清 三好エミ子 山村一 郎 渡部 守 高知県 山本 忠 橋本勝彦 藤田洋子 福岡県 平田郁子 吉松 貞 長崎県 山下タエ 熊本県 土田利子 松岡紀代子 沖縄県 宮城 勇 会友 兵頭義彦

ありがとうございました。

計 報 (28・4・19 現在)

- 秋保十郎様 (山形県)
  - 宮本 博様 (千葉県)
  - 平井 貢様 (神奈川県)
  - 井上庸子様 (東京都)
- 謹んでお悔やみ申し上げます。



平成28年度  
マーシャル方面遺族会主催  
現地慰霊について 高林芳夫

4月28日の役員会で現地慰霊を実施する事が決定致しました。

訪問する島 クエゼリン島・ルオツト島

実施時期 平成28年11月24日～30日  
今回は私たち遺族の他に朝香誠彦様と、六本木男性合唱団20名が同行の予定。六本木男性合唱団については現地での受け入れが可能か否かによって決まります。現在、現地司令部と交渉中です。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拜礼式

井上賀雄

5月30日(月)、今年の拜礼式は冷たい小雨の降る、寒い一日でした。

常陸宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、設えたテントの中、皇宮警察音楽隊の演奏による国歌斉唱に始まりました。

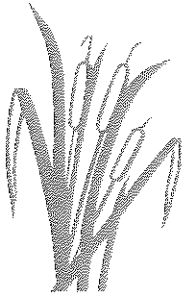
厚生労働大臣式辞、次に納骨。厳粛な雰囲気の中、今年は2337柱のご遺骨

が納められました。その中に米軍から提供されたマーシャル諸島クエゼリン環礁のご遺骨が含まれていることを知り、今回参列させていただいた意義を改めて有難く感じました。

常陸宮同妃両殿下のご拜礼に合わせて参列者一同拜礼。

献花は例年通り安倍内閣総理大臣、遺族代表、関係国駐日大使、衆議院、参議院各議長、外務、環境、防衛各大臣ほか、各政党の代表者、各関係団体代表が行い、最後に厚生労働大臣の献花により閉式となりました。

今回当遺族会からの参列は、米林ご夫妻、内海さん、井上の4名でした。毎年5月下旬に行われる国の行事、荘厳な「千鳥ヶ淵戦没者墓苑拜礼式」に一度参列されることをお勧めいたします。千鳥ヶ淵戦没者墓苑は靖国神社から歩いて約10分以内のところにあります。



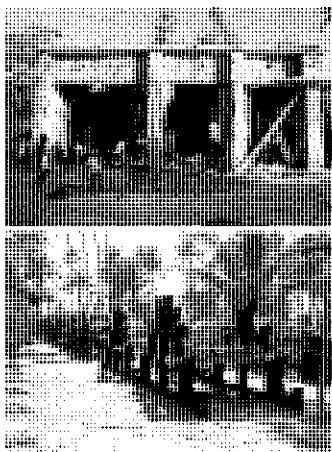
ウオツゼ島慰霊の旅

宮城県 佐藤 勉

私は4月10日～24日まで、亡き父の慰霊として、ウオツゼ島に滞在しました。

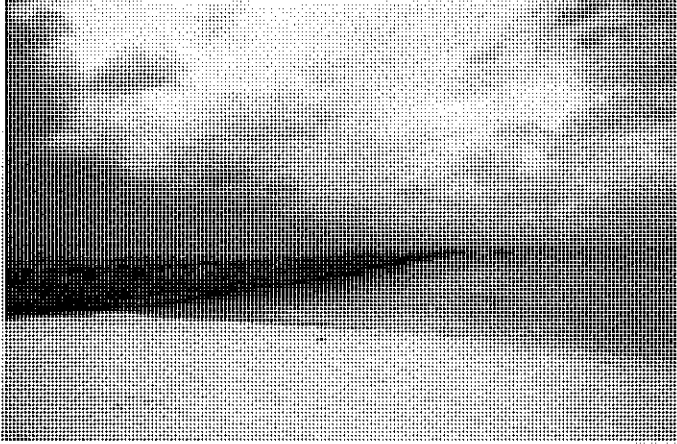
元在マーシャル大使・安細和彦さんの紹介で知り会った、元・青年海外協力隊の森山さんにコーディネートを依頼し、マーシャル語の通訳として(現・マーシャルの日本企業に勤務)末松さん、カメラ・取材に大川さんと3人の支えをいただきました。

爆撃と飢餓という過酷な2年間、父の人生の最期の地となったウオツゼ島。その戦地を7日間かけて、隈なく歩き、検証が出来ました。



ウオツゼ島内に残る建物下・魚雷架台跡

現地の方の協力もあり、やっと、長年の念願だった第64警備隊本部の場所を発見することができました。感無量で涙がでました。本部は中地下で椰子の木と雑草で覆われ、私たちだけでは発見不可能の場所でした。



第64警備隊棧橋

2日後、本部近くに祭壇をつくりました。自炊していた私たちは「飢餓の島」を取り消すように、おにぎりをいっぱい

捧げました。現地の方々を含み7人でそれぞれ懇ろに焼香しました。

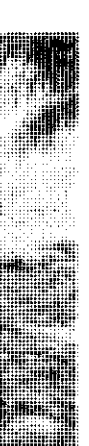
お別れに森山さんのウクレレ伴奏で「故郷」と、マーシャルの歌を歌って別れを惜しみました。

今回の慰霊は偶然が重なりあって奇跡的なものでした。歴代マーシャル大統領8人中、第3代のカサイ・ノート様、(当会の篤志会員だった故・山村要様の娘、メアリーさんの婿)のご自宅で、ご家族と懇談ができました。

ウォッセ島ご出身の第4代大統領ご本人にも会うことができ、島で誰に挨拶すべきかなど、多様なお話を伺いました。



父の形見の手帳と遺影



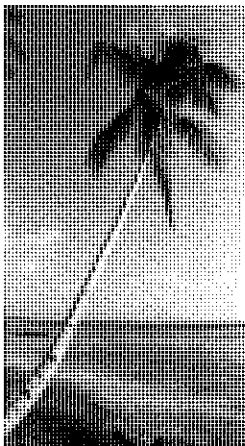
祭壇を作り慰霊



第8代の現(女性)大統領ヒルダ・ハインさんには、通訳の末松さんのはからいで、2ショット写真と、慰霊の旅のことをお話し出来ました。

今回の旅を振り返り、多くのマーシャル遺族会会員の皆様には、間接的に、大変お世話になった事を感謝いたします。

※表紙の海軍砲も佐藤さんよりご提供いただきました。



## 第二次世界大戦 私の戦争過去帳

●大井和子さん(東京都)よりご提供いただきました故・吉田誠さんの手記です。その貴重な内容を会報29号、30号に連載し、今回が第3回目となります。飢餓状態で過酷な戦場となったウオツゼ島の様子、戦後の国内の様子まで連載いたします。(編集部で読みやすく順番を組み直しています)

## 連載③ 未だに多くの戦友が眠る飢餓の孤島

マーシャル群島

# ウオツゼ島

■筆者

吉田誠さん

(平成24年7月2日 91歳で逝去)

総てが忘れないうちに克明に。  
戦友が多く眠る。  
戦争は勇ましい反面、  
悲惨である。忠実に記す。



オリメージ島のスケッチ(筆者画)

### 同士討ち(ゼロ戦不時着)

いつも同じコースでB25はマジユロからやってくる。昭和18年頃、5機のゼロ戦が来援にきたことがあった。その時、対空砲撃により1機のゼロ戦のガソリンタンクに機銃弾が命中し、ウオツゼに不時着した。搭乗員はマロエラップ基地の252空戦闘機であった。着陸するや怒った搭乗員の飛行兵曹が司令公舎に来て、吉見司令(大佐)に対し、大きな声で「二度とウオツゼには来援にこない」とすごい勢いで104航空支所に行ってしまった。と当時の司令従兵が私に告げた。しかし、その従兵は遂に逃亡してしまっただけで、修理完了のゼロ戦も以後、一機たりとも上空に姿を現すことはなかった。

### 青木分隊長

(海軍主計兵曹長・福島県)

突然、敵機が超低空で(グラマンF4F)攻撃をしてきた事があった。即、爆弾の落ちた穴に滑り込んだところ分隊長と居合わせた。分隊長は拳銃で敵機を

射撃する姿勢であった。やがて敵機が去ったので「分隊長、拳銃では無理でしょう」と言った。分隊長曰く、笑って「海軍魂で落とすんだ」と。お互い笑ってしまった想い出がある。今考えるとナセンススかもしれないが、当時は精神力というものがあつた。最終的に爆風により私の耳は難聴となった。

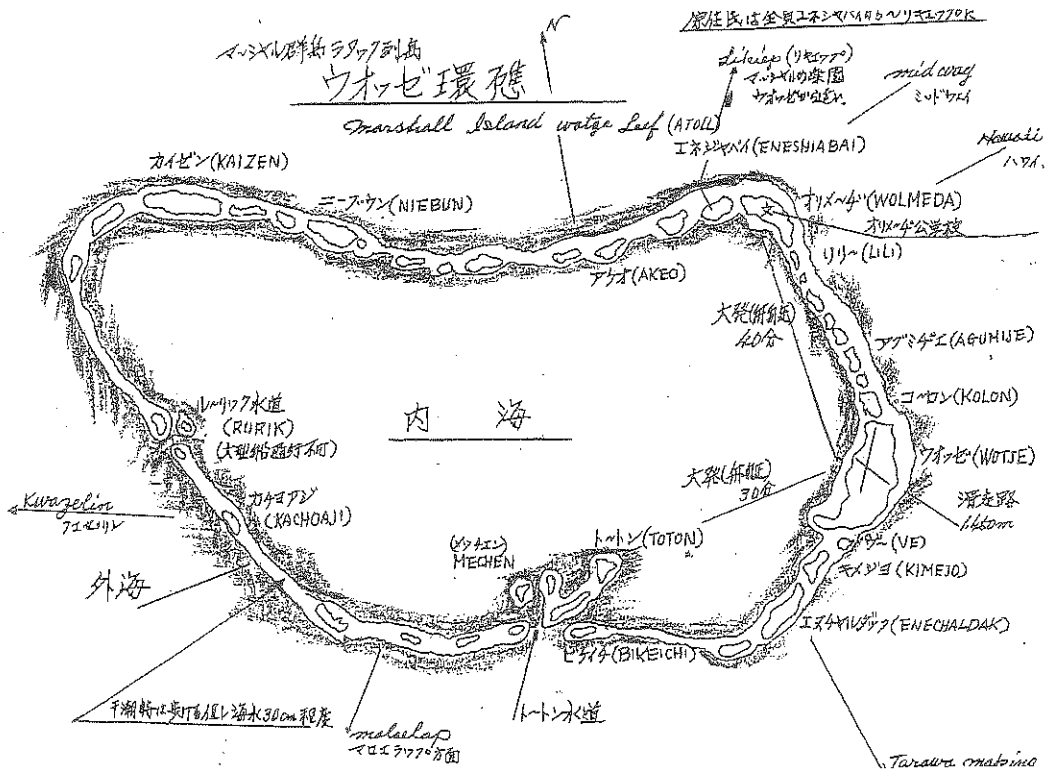
### ある若い飛行兵の想い出

戦闘がギルバート方面であった頃、南岬地区で歩いていたら若い飛行兵に敬礼された。大きな写真機を持っていた彼は、何故か私に「写真を撮らせて下さい」と「内地の土産になりますから」と言っていた。可愛い少年飛行兵で階級は1等飛行兵だったが、彼も後日、ギルバートに進進し未帰還となっている。名前も告げず、であった。私はタコツポに大切に母達の写真を保管していたが、爆弾の直撃を受けて灰となった。また別のタコツポを歩く、ジブシーだ。

### ギルバート玉砕時の通信

昭和18年末 忘れられないギルバート





玉碎時の通信。

当時、主計科

の兵舎の隣室が  
通信室であつ  
た。

「キジョウニテ  
イチメイセン  
シ テキセンカ  
ンイカ タスウ  
ツリガタジン  
ケイニテ ソク  
フタマル ホ  
クジョウ ダイ  
イチヘンタイ  
グラマンニツイ  
ピサレテイル  
ワレネリヨウ  
ナシ コレヨリ  
タンキ トツ  
ニユウス」  
通信員はこのよ  
うに記入してい  
た。

### 軍医長のお供としてオリメージ島へ

昭和18年12末頃 遂に食糧は皆無とな  
り、味方からの輸送は絶望となった。主  
計長の命令により、第802空、軍医長  
の中佐のお供として夜間、ウオッセ本島  
からオリメージ島へ向かった。大発に乗  
り30分。目的はこの土地にかぼちゃ、ト  
ウモロコシ等の栽培することであった。  
軍医長も話すことはほとんど食べるこ  
とばかりであった。軍医長は軍医学校（築  
地）時代、銀座のお多幸に行ったとか。  
特におでんが美味であったよと言ってい  
た。オリメージ島には公学校があり校長  
兼先生は日本人であったが、そのときは  
日本に引き揚げたあとで不在であった。  
校舎の机等にシヤモが我が物顔で歩いて  
いたし、校庭には豚が散歩していた。学  
校の横に「南洋興発株式会社 オリメー  
ジ支所」の看板が立っていた。多分コブ  
ラの集積場所であったのかもしれない。  
このオリメージ島はやがて逃亡兵の足場  
となってしまった。隣にあるエネジャバ  
イ島には米軍の舟艇が来ていたよう  
で逃亡には舟艇を利用したとのことである。

この頃の話は食べることが主であった。銀座の梅林とんかつの話をしたら軍医長も知っていた。貧乏学生には梅林が美味しかったし、第一安かったからだ。この島の原住民はカヌーでエネジャバイ島から米軍舟艇でリキエツブ島に集められたという。

## つかの間の喜び？食糧の補給

昭和19年5月頃 栄養失調で歩行困難者はタコツボでは生活が出来ず、各防空壕に分散して横になったりしていた。体調の悪い者から次々に死んでいった。その頃突如、主計長に呼ばれ、主計科から2名(中村2主曹と私)一般兵科及び航空隊の中から元氣者が選定され、約20名程度であったと思う。○日午後8時50分、トートン水道外海にて食糧品等の受給をするとの件であった。第四特根からの連絡があり、呂号第52潜水艦から受取るとの事で大発舟艇2隻に分乗して中央棧橋から出発した。月もなく真っ暗な夜だから、この日になったと思った。大発は1隻で現在の2トントラック程度の荷物を収容出来る。出発してトートン水道

まで40分。やがて外海に。潜水艦は浮上し、懐中電灯で○を3回が合図、当方も3回で応答した。艦は暗いので徐々に近づいていったところ、突如3方向からサーチライトで照らされた。砲撃と機銃の発射により、残念ながら舟艇は引き返す以外になかった。その時駆逐艦3隻に発見され、舟艇付近に多くの水柱が。それに加えて今度は魚雷発射であり魚雷は離島にて爆発していた。アメリカらしい攻撃である。小さな舟艇にまで魚雷を使用するとは。残念だが、何も得る事なく帰島した。当時、総ての暗号電文は解読されていた。呂号第52潜水艦は以後の調査で爆雷攻撃を受け沈没している。

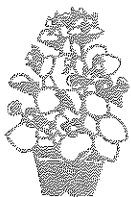
## 墓標 — 悲しい侘しい場面

本島全体での集団墓地は何ヶ所あったのか私には解らず。我々の陣地1砲台より内陸に戦死された方々の墓地が出来た。トタン(焼トタン)の上に死体を置き軍服も靴もそのままであったが、一時埋葬した方々も一緒に並べた。総ての頭(カシラ)は北向きとし、日本に向けた。当地は赤道直下のためか、掘り出し

て移転の際は早いものですつかり白骨化していたものもあった。胃の付近に何か黒い異物が残っていたり、ある死体は不思議に頭の毛が多くなっていたものもあり、やがて私も此の地で永眠するのだと覚悟の日々であった。―合掌― 隊は区別されたが、誰彼の名前は不明。捧げ鏡も何もなく…。当時の若い18〜19歳の勇士が国に命を捧げた。少しは現代人も考えろ。

国のために、家族のために、皆に送られこんな遠いマーシャルに来たのに。皆さん静かに休んで下さい。何もしてあげなかった本当にご免なさい。祖国のために総てを捨て、戦って来た戦友、本当に苦勞様でした。彼らの犠牲のうえに現在の平和がある。この様に祖国の犠牲になられた方々を絶対に忘れるな。忘れてはならないのだ。今日の平和を忘れるな。自由とは責任を持って生きることだ。現代の社会、甘えと墮落だ。

つづく



平成28年度・日本遺族会主催  
戦没者遺児による慰霊友好  
親善事業・実施計画概要

実施地域 マーシャル・ギルバート諸島

A班 クエゼリン・マジユロ

B班 タラワ・マジユロ

\*応募状況により、次の地域は機上遙拝  
等を実施する場合があります。

ルオット・ウオツゼ・マロエラツプ・

ミレ・ヤルート

実施時期 平成29年3月11日(土)

3月19日(日)

8泊9日

募集人員 36人

申込締切 平成28年11月11日

参加資格 戦没者の遺児

参加費 10万円

申込方法 在住する各都道府県

遺族会事務局へ

主催 一般財団法人 日本遺族会

(厚生労働省補助事業)

お問合せ先 日本遺族会事務局

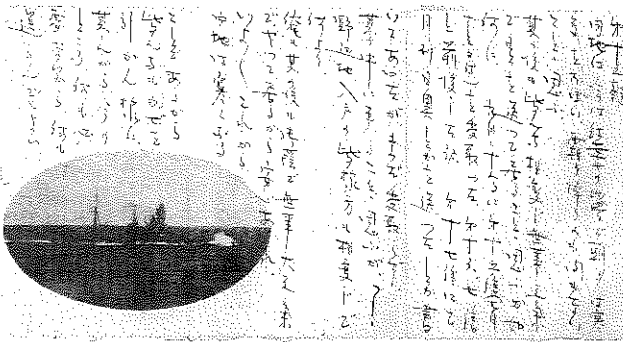
電話 03・3261・5521

タラワで戦没された

塚原四十二様から家族への手紙

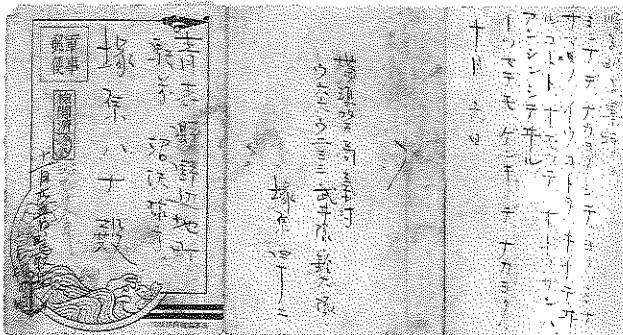
塚原様の次女・須藤明子様(青森県在住)より、お手紙の写しをお借りしました。戦没される直前、10月付の戦地からのお手紙です。

昭和18年11月25日 玉碎 享年34歳  
所属 横須賀海軍第三特別根拠地隊



順子、明子、景暉ヨ

ミンナデ ナカヨクシテ ヨクミナ  
サマノイウコトヲ キイテキルコト  
オモツテ オトウサンハ アン  
シンシテキル イツマデモ ゲンキ  
デ ナカヨク  
十月六日





第54回 マーシャル方面遺族会慰霊祭 平成28年4月3日 於 靖国神社